



●書籍のご購入や内容等については最寄りの書店や発行元にお問い合わせ下さい



『今日からはじめる農家の事業継承』

伊東悠太郎 竹本彰吾 著

家の光協会 刊 (TEL03-3266-9029)

定価 1,980円 (本体1,800円+税)

農家の子どもが親の跡を継ぎたがらないのは農業が儲からないからだと思っていたが、感情的な親子関係が事業継承の障害となっているらしい。

本書は、親の跡を継いで農家になった二人の若者が家族経営農家のために書いた手引書だ。著者の伊東悠太郎氏と竹本彰吾氏はともに農業界における事業継承の相談役としても名高く、自らの経験をもとに全国の農家に向けて円滑な継承方法を指南している。本書は継承時期や計画の立て方を詳述しているほかに、親子が経営者・後継者として精神的成長を遂げることの重要性を指摘していることが特徴だ。

親は存在意義を感じたいから子に頼られたい。子はそれを支配と受け止め反発する。しかし、育った時代が異なる親子が互いに正論を主張して相手を説き伏せようとするのは不毛だ。本書は親子間の普段からのコ

ミュニケーションを重視したうえで、親世代には上皇陛下の生前退位を具体例に“引き際の美学”を問い掛け、経営権譲渡は周囲から尊敬されなくなることはない論ず。子には、親との余計な口論を避けるために第三者を交えて公的ビジネスとして進めるという有効策を明示する。親から土地や農機を引き継げば初期投資を抑えられる。親の生産技術を身近で学べるし、顧客や人脈を引き継げるのも利点だ。それなのに、農業に意欲のある若者が親との確執のために好機を捨てるのは惜しい。

中小企業庁によると農・林業を含む中小企業・小規模事業者は国内全企業の99.7%で、その半数が後継者未定だ。このままでは2025年までに累計650万人の雇用とGDP22兆円が失われると試算される。そんな深刻な時代が招いた本だ。事業継承問題の当事者にはもちろん、相談役としての役割が期待されるJAや地域の普及指導員にも本書を読んでもらいたい。(日本農業新聞 さいとう はな 齋藤 花)